

令和5年度（2023年度） 自己評価結果表

令和6年3月31日
社会福祉法人ふじみ野会
子どものそのBaby保育園

1, 本園の保育目標

【わたしたちの願い（保育理念）】

豊かな自然	自然の中でのびのびと子どもを育てます
あたたかな人間関係	おとなの愛情と仲間の中で子どもを育てます
ほんものの文化やあそび	豊かな文化やあそびの中で子どもを育てます
地域とともに	園と家庭、地域がいっしょになって子どもを育てます

【私たちのめざす子ども像（保育目標）】

- ◎友だちと思いきりあそび、自分の気持ちを素直に表現でき、人とつながって生きていく子ども
- ◎何にでも興味・関心を持ち、自分でやってみようとする子ども
- ◎失敗を恐れなくて挑戦し、仲間とともに学び、その経験を生かす子ども
- ◎あそびの中でからだを動かす楽しさが分かる子ども
- ◎生活習慣を身につけ、健康な生活ができる子ども

2, 本年度の重点目標

5月からコロナが5類となり、社会の感染状況を見ながら対策を柔軟に対応してきました。その中で、子ども達が生き生き生活し、成長を妨げないように考えてきました。子ども達が、ともだちとしゃべりまくり、からだを寄せ合いながら、人のぬくもりの中で育つことを大事にしてきました。

【振り返りと自己評価】

1, コロナ5類後の保育内容について

社会の状況と感染状況を見ながら感染予防を続けながらも子ども達の体験が豊かになるように勧めてきました。

コロナ時代に感染対策を考える中で気づくことも多くあり、今年度はコロナ時代の気づきからさらに見直し充実できるようにしてきました。異年齢との散歩給食交流、苗間保育園とは年長が公園で一緒にあそんだり、人形劇を見せ合ったり苗間保育園のホールで人形劇もおこないました。

2, 保育内容について

(1) 0歳児の言葉で伝えられない時期の子ども気持ちにどう寄り添うか

ハイハイやつかまり立ちや歩行が始まり、子どもの興味関心が増えてくる時期になり、思うがようにしているとどうも友達とうまくいかないことが増えていきます。「なんで思うようにしてくれないの」

と言わんばかりに、イライラし、おとなから見るとトラブルになることが多くなります。

関わり方を伝えるとともに、子どもが自分のあそびを満足してあそべるようにしていくために一人一人の子どもの思いを感じ取りながら、自分のあそびと大人の関りの中で世界を広げられるように実践から検討おこなってきました。

(2) 1歳児のこだわりとどう向き合うか

自我が育ってくるがまだまだ大人の言葉は理解できないこの時期。子どもの“こうしたい”という思いをどう受け止め、思うようにいかないことをくぐりながら、その子が楽しく生き生と成長出来るようにするにはどうしたら良いかを実践を通して学び合いました。この時期は個人差が大きく一人ひとり思いも、思いの表現の仕方も違う。子どもの伝えたい思いがしっかり育ったからこそ現れることなので、一人ひとりの子どもとじっくり向き合い、関わるのが大事であることを学びました。子どもはおとなが寄り添おうとしていることをしっかり受け止めてくれて子どもの大人に対して関わりを変えてくれる事もわかりました。

(3) 2,3歳児の友達関係のひろがりを支える為に

2,3人の友達とあそぶことが楽しくなってくる時期だが、同時にイヤイヤが激しくなりうまくいかないことが増えてきます。大人があそびを繋げ友達関係を広げていくを考え実践していきました。

(4) 一人ひとりの子どもを通して育ちを考える

自分の思い通りにならないと我慢できなかつたり、気持ちを切り替えることがうまくいかないときにどう対応していくかを実践を通して考えてきました。その子の気持ちに寄り添いながら、思い通りにならないことをおとなや仲間の中で解決していくことを考えていくことが大切だと考え、ゆっくり子ども達と向き合っています。

3, 行事運営について

令和5年度は入園のお祝いは昨年同様人数制限し分けて行いました。その後の年長の山登り、合宿、は制限なしに子ども達と作戦を立てながら行いました。運動会、まつりは保護者の方も人数制限の範囲を広げ実施しました。秋の野外保育はたっぷりあそべました。人形劇、作品展、卒園のお祝いでは在園児代表として4歳クラスが参加しました。制限の幅を広げながら保護者の方にも楽しんでいただけるものになりました。

しかし、保育園の環境から全員が集まる場所がないことは変わらななので、何かしらの対策を考え、職員と保護者が一緒に子ども達の成長を感じ祝える方法を来年度も考えていく必要があります。芋ほり、焼き芋、ジャガイモ苗植えは今年も神木さんにお越し無事出来ました。

4, 給食と保育

残食の多いおやつ例えば、ふかし芋をたこ焼き風にするなど調理方法や見た目を変えることで残

食が少なくなりました。

多様な食物アレルギーの対応にあたり、アレルギーの子の給食のお盆を替え、誤食防止にとりくみました。同時に行事の際はみんなが同じものを食べられるよう他の子の食材をアレルギー対応にするなど出来る限り『アレルギーだからその子は仕方ない』ではなく園と保護者と相談しながらどうしたら楽しい体験を保証できるかを考えてきました。

5. 職員同士の協力・連携

クラス内の話し合い、リーダー会、全体職員会議、など職員が子どもたちの様子を共有し合えるようにしています。子どもへの理解や対応を共通の認識をもって保育できるよう努めています。

6. 研修の充実

キャリアアップ研修をオンライン研修も利用しながら単位取得に努めました。しかし、文化学校など自分の学びたい研修の受講は出来ませんでした。

園内研修は土曜出勤の関係により、会議時間の確保が難しく、保育に関わる、日々の実践から学び合うことを重視しました

7. 健康・安全・衛生への配慮

送迎時間以外は玄関を施錠しています。

9：30以降登園の出欠確認が出来ないときは保護者に確認しています。

昼寝は子どもの顔が見えるように明るさを調節し、乳児は呼吸チェックとうつぶせ寝を防止しています。

9時（又は9時半）の時点での出席確認を行い、欠席報告のない園児に対しては保護者に連絡をし、所在確認を行っています。

保育中の人数確認は移動の時はもちろん、常に子どもの居場所の把握に努めています。一人で行うだけでなく職員内で声を掛け合うようにしています。

プール活動はプール監視をおき、温度など記録をつけ安全に夏でしかできない子どもの活動を保証していきました。

8. 家庭、地域との連携、保護者支援

保育参加など保護者が参加する行事を昨年より行うことが出来、話が出来るようになったことで理解してもらえることも多くなったように思います。

園近くの老人施設へ散歩途中によって利用者の方とガラス越しに挨拶しました。12月には老人施設で地域の方も一緒にクリスマス会に参加し、歌を披露、お年寄りと交流しました。

4. 園内の環境整備、安全対策等

ネットワーク環境が改善出来ました。全部屋電話がつながるようになりました。パソコンを増やしオンライン研修を園内で受講できるようになりました。

外階段と屋上の防水とゴムチップによる改修工事により、屋上の床が熱すぎず遊べるようになりました。お弁当を食べることもでき、狭い園内での活動の場として役立ちました。

令和5年度の修繕は網戸や水漏れシンク、トイレの水漏れ、園児テーブルの破損修理などを行いました。また、火災報知器設備の老朽化により改善が求められているため交換を行いました。

令和6年度は職員の事務作業の軽減と保護者の利便性を考え、ITC活用を実現していきたいと考えています。業者により内容や金額が全く違う為慎重に検討していきたいと思っています。

【今後の課題】

・令和6年度は、衛生環境を保ちながら感染症に負けない心身共に健康に過ごせるよう、たっぷりあそび、よく食べ、からだを休める生活を送りたいと思います。保育や行事などはコロナ生活の中で発見した気づきをさらに豊かにしていきたいと思っています。

・異年齢との交流を開始し、憧れをもって意欲的に活動できるよう考えていきます。

・保護者参加の行事をさらに進め、少しでも子どもと保護者と職員が、かかわりを持ちながら一緒に経験出来ることを考え、園と保護者の間の距離を縮めていかれるようにしたいと思います。

・キャリアアップ研修はもちろん、他の研修についても支援していきたいと思っています。また、保育の中での疑問や他園と交流し園内研修も再開していきたいと思っています。保育の質の向上を求めるとと、職員の待遇を改善し、生き生きと仕事に向かえるようにすることは共に重要な事なので職員の理解と協力のもと行って行きたいと思っています。

以上